

# 森の音楽をつくろう

—『ピーターとおおかみ』—

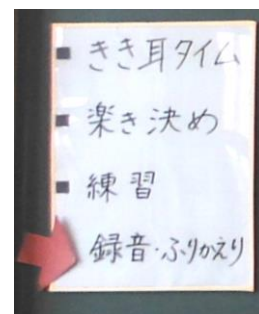


香川大学教育学部附属坂出小学校  
溝渕 佳子

## 1 特別支援教育の視点から

### (1) 学習の見通しの明示

「次は何をしたらよいのだろう」と不安をもつ子供へ、1時間に学習する内容と順序を明示することで見通しをもって活動するための支援とする。一時間の学習内容と量や、次にどのような活動が行われるかの順序が一目で分かるようにしておく。可能であれば、取り組む時間も明示し、タイムタイマーなどと組み合わせて使うと、より効果的である。慣れてくると、子供から「先生、時間が来たから次は〇〇だよ」と声をかけるようになってくる。



### (2) イヤーマフの使用

「いろんな音が一度に聴こえてきていやだ」「大きな音を聴くと、少し気分が悪くなる」といった聴覚過敏の子供たちが、安心して授業に参加できるようにするための支援とする。例えば、鍵盤ハーモニカやリコーダーの一斉練習や、合奏での個人練習などに用いると効果的である。また、鑑賞においても、教師や大半の児童が気にならないような音量であっても、使用する姿も見られる。個によって聴こえ方に違いがあるので、必要なときに使用できるよう置き場所を明示しておくことも安心感につながる。



### (3) カーテンによる外的刺激の遮断

「運動場から楽しそうな声が聞こえて気になる」「急に雪が降り出したのが見えて、ついそっちを見てしまう」など、回りの音や見えるものが気になって集中しにくい子供たちのために、カーテンをして外的刺激を軽減し、集中して聴いたり、豊かに想像したりする際の支援とする。



### (4) 色や形による視覚支援



「どの楽器が何の仲間か、分からない」「音符がほとんど分からないから、どうかけばよいか困る」といった、音楽の知識に不安のある子供たちへ、一目見たら分かるような色や形を用い、意欲をもって取り組むための支援とする。図形は自分で自由に考え、できるだけ速く簡単に描けるものにするこゝで、描いたカードを並べるなどして、音を重ねるタイミングを確認したり、音楽の仕組みを可視化したりするのに有効である。

## (5) 活動のモデリング

「好きなリズムといわれても、思いつかない」「自由に表すといわれてもどうやってらよいか分からない」といった子供たちのために、どのように進めていけばよいか教師や他の子供がモデルを示すことで、見通しをもった取組への支援とする。例えば、図形を描く際には、「バイオリンの音はなめらかに聴こえるよね。少しくききした感じもするから、始めと終わりに渦巻きを描くよ」と理由を伝えながら、図を描いて見せる。また、他の子供たちが描いた図形を提示し、理由を伝えさせ、同じように感じたならその図形から選択してもよいと伝える。音の鳴らし方（リズムや強弱等）も同様にモデルを示す。そうすることで、どのように進めればよいか理解でき、もし思い浮かばなくても選択できるという安心感をもって取り組むことができる。

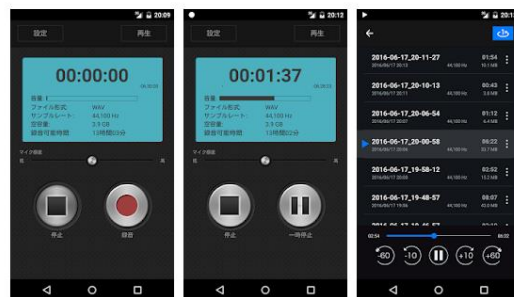


## (6) タブレットによる簡単な録音・再生

「一つのことに集中している（演奏している）と、他のこと（どんな演奏になっているか聴くこと）が一緒にはできない」「自分たちが思っているように音が重なっているか分かりにくい」といった子供たちに、録音機器で自分たちの演奏を録音し、確認する時間をとるようにする。今回は録音機器としてタブレットを使用。簡単に録音、再生するために使用したアプリは「PCM録音」。グーグルプレイから、フリーでダウンロードできる。録音と停止のボタンが大きくて使いやすい。また、マイク感度を低から高へと自由に設定できるので、聴きたい音を確実に録音することができる。



PCM録音



## 2 参考文献

宮崎新悟 志民一成著、「新学習指導要領の展開」, 2017, 明治図書

阪井恵 酒井美栄子著、「音楽授業のユニバーサルデザイン はじめの一歩」, 2018, 明治図書